

令和4年度 府立菟道高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）実施段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1) 集団の中で切磋琢磨し人格の形成を図る。 2) 個人の尊厳を重んじ、知・徳・体の調和のとれた発達を図る。 3) 地域に根ざした一層豊かな学校文化、「菟道文化」の創造を図る。	○ 落ち着いた学習環境を維持し、あらゆる教育活動において粘り強い指導を行った。学校評価アンケートでは教育活動について一定の評価が得られた。 ○ 教員が一人一台タブレット端末を持つことにより、ICTを積極的に活用した授業を展開することで、今年度から始まるBYODに備えることができた。授業改善に向けた取組は継続する必要がある。 ○ 特色化事業やUJI学においては、コロナ禍の影響で発表や参加の機会が限られたが、生徒は真摯に、かつ意欲的に取り組むことができた。コロナ禍の状況を見据え、学年、担当分掌、教科等で取り組み時間の確保や担当者間での調整が必要である。また、今年度入学生の総合的な探究の時間への移行の工夫が課題である。 ○ 外部機関とも連携しながら心身に悩みを抱える生徒や特別支援を要する生徒への指導を行った。今後も全教職員の知識と技能のスキルアップを目指す。 ○ 広報活動では、学校公開・説明会・HP等の中で本校の魅力発信のために、在籍生徒の教育活動や学校生活の様子をさらに効果的に発信することが課題である。 ○ 希望進路実現に向けて最後まで粘り強く丁寧な指導を続けた。納得のいく進路実現のため全校体制で3月まで指導していく組織作りが必要である。 ○ コロナ禍の影響で、学校行事や平素の教育活動の変更を余儀なくされたが、柔軟に工夫を凝らしながら教育活動を行うことができた。	○ 生徒が安心して堂々と真面目な高校生活が送れる落ち着いた学習環境を維持する。 ○ 本校の校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」をすべての教育活動の中に具現化し、「知」「徳」「体」のバランスがとれた生徒の育成を図る。 ○ 質の高い授業をはじめとするすべての教育活動を通して組織的で計画性のある指導を行い、学力向上と進路希望の実現を目指す。 ○ 種々の課題を抱える生徒に対し、手厚い指導を行い、安心して学校生活が送れるような指導体制を整える。 ○ スマートスクール推進事業の成果と課題を踏まえ、タブレット端末やオンライン授業を活用した教育活動がさらに進むよう努める。 ○ 広報活動において、卒業生や在校生が直接中学生や保護者に語る機会を設け、菟道高校生の良さをアピールし生徒募集につなげる。 ○ 特色化事業で得た知見を基に「総合的な探究の時間」の活動内容を具体的に計画し、円滑に取り組むことができるよう図る。

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
教務部	・新学習指導要領に基づいた教育課程を充実させるための研究・実践を行う。	・新学習指導要領に基づくとともに高大接続改革を見据えた「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる授業について、研究・実践を行う。 ・観点別学習状況の評価について、実施に伴う課題を整理し、その解決方法を探る。 ・ICTを活用した授業の在り方について、研究・実践を行う。 ・令和4年度入学生以降の教育課程を踏まえた探究型学習について具体的な準備をすすめる。	C B B B	B	・観点別学習状況の評価については今年度の評価方法で学年末の最終評価を行い、次年度以降、課題の改善を図る。 ・個人端末を活用した授業を秋期授業交流週間で公開し参観してもらうことができた。 ・令和4年度入学生2年次の総合的な探究の時間について具体的な取組内容を検討することができた。
生徒指導部	・自他の存在を大切にする心の育成を図る。	・道徳教育等の講演会や学校行事、部活動を通じて、自己肯定感の醸成を図るとともに、他人を尊重する心の教育を行う。 ・学年部、他分掌と連携して、生徒に携帯電話・スマートフォンに関する規定を守らせることで、落ち着いて学習に取り組める環境を作る。携帯電話・スマートフォン等に係る指導件数を25件以内に抑える。 ・タブレット端末使用に伴うルール作りをICT推進委員会や他分掌と協力して行う。 ・いじめアンケートを活用して、いじめの早期発見と対応を行い、いじめのない生徒集団の形成を目指す。	A		・2月21日の時点で携帯電話・スマートフォンに係る指導は18件となっている。また今年度からの1年生タブレット端末使用に伴い、7月中旬にタブレット使用規程を施行した。その規程に則って生徒指導部で指導したのは6件となっている。 ・いじめアンケートについては年に3回（3年生は2回）実施し、未然防止に努めた。 ・身だしなみについては第一ボタンが開いている生徒や頭髮加工を行う
	・社会の一員としての自覚と必要な技能の育成を図る。	・校門指導、身だしなみ指導を通じて、基本的生活習慣の確立を図るとともに、教職員が率先して挨拶をすることで、生徒も自発的に挨拶			

		が行える雰囲気を校内に醸成する。また、講演などを通じてSNSに係る諸問題を理解させるとともに、学年部や教科と連携して適切に利用する指導を行う。 ・成人年齢引き下げに伴う責任や問題について理解する。	B	B	生徒が若干名いる。生徒自身が自己指導を行えるように促していく必要がある。 ・5月下旬、1年生向けに情報モラル講座（KDDI）、12月上旬、2年生向けに消費者トラブル防止についての講演（山城広域振興局）を行った。 ・菟道祭、体育祭を実施し、新型コロナウイルス感染対策の制限がある中、生徒が生徒会活動や各委員会、部活動を通じて主体的に取り組むことができた。 ・自転車事故の件数は12件となっており、これ以上の発生を防ぐためにも引き続き交通安全指導を行う必要がある。 ・個人ロッカーの使用を促すとともに自己管理の徹底を図る必要がある。
	・生徒主体の学校づくりへの取り組みを推進する。	・学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等の中で各委員の生徒が主体的に取り組める活動の場を提供する。 ・学期に1回、部活動代表者会議を開き、菟道高校や部の代表としての責任と自覚を持たせ、主体的に活動する集団を形成する。	A		
	・安心・安全な学校生活への取り組みを推進する。	・交通安全指導を通じて、生徒の安全に対する意識を高めるとともに、交通ルールの周知を図ることで、登下校時の生徒の安全を守る。年間の交通事故件数を10件以内に抑える。 ・ロッカーの利用を推進し、生徒の防犯意識を高める。	B		
進路指導部	・生徒一人一人が自らの在り方生き方や能力・適性等について主体的に考え、理解し、自らの力で将来を切り拓こうとする態度を育成する。	・自分の進路を主体的に選択・決定できるようにする「キャリア教育」、幅広い人間性や人権意識を育成する「人権教育」を計画的に実施する。	B		・キャリア教育講演会や分野別説明会、分野別模擬授業、人権学習等の進路行事を通じて、生徒一人一人の望ましいキャリア形成と人権意識の向上を促進することができた。
	・3年間を見通した進路指導計画を企画・立案し、体系的・組織的な進路指導を実現する。	・進路HR、進路講演会、課外講座、模擬試験等の進路行事を効果的に実施できるよう、各分掌・教科と連携を密にして企画・運営する。	B	B	・他分掌や教科との連携を密にし、進路HRや課外講座、模擬試験等の取組を効果的に実施できるよう努めた。
		・各教職員の進路指導力向上に資するよう、入試動向や模擬試験、各種進路研修会等の情報を共有する。	B		・進路に関する情報を紙媒体やデータで提供した。また、オンデマンド方式の小論文指導講座を実施した。
図書部	・教科や他分掌との連携、図書館の刊行物の発行や図書委員会活動などにより、生徒が落ち着いて読書に親しむ環境をつくり、良いかたちで読書週間を身につけられるよう指導を行う。	・教職員推薦図書の紹介冊子『菟道の泉』を年1回、図書館便り『あじろぎ』を月1回発行することで、読書の楽しさや「読む」という行為の大切さを発信し、「言葉の力」の育成を図る。また、教科や分掌と連携し、探究学習などに対しての授業協力をを行い、積極的な読書指導を進める。	B		・『菟道の泉』や『あじろぎ』は例年通り発行できた。 ・館内に「先生の本棚」を展示し、多くの先生方に御協力いただき、読書の楽しさを伝えた。
	・視聴覚機器の整備・充実を図ることで、ICTを用いた授業その他の諸活動での有効利用を図る。	・図書委員会活動を活発に行い、「ライブラリーニュース」の発行や、図書館でのブックフェアを通じて読書に親しむ機会を提供する。 ・エクセレントリーダー証やベストリーダー証を設けることで「多読の勧め」を行い、生徒の読書習慣の啓発を行う。	B	B	・図書委員会でブックフェアとしおりコンテストを行った。 ・館内装飾としてiPadで手順を調べて折り紙を制作した。 ・廊下へのポスターの掲示など図書館の広報活動に努めた。
		・授業や行事の充実に向けて、教科や他分掌と連携して視聴覚機器の有効利用を進める。	B		・閲覧室にWifiや大型ディスプレイを設置していただき、探求学習との連携も行うことができるようになった。
保健部	・自他の生命を尊重するとともに、自己の健康管理に努め、心身共に健康で安全に生き抜くたくましい身体と豊かな心を養う。	・保健委員会活動等を通じて、身近な健康課題について考える機会を提供し、主体的に自己の健康管理を実践できる力を養う。また、講演会等を通して、性に関する問題や薬物乱用防止等の指導を行う。	B		・保健委員会で、感染防止や、衛生管理意識の向上に努めた。 ・保健教育講演会では、予定通り実施することができた。

		・教育相談の充実を通して、安心安全な学校生活を送れるよう支援する。様々な課題を抱える生徒については、家庭や地域、関係機関、医療機関、スクールカウンセラーと連携しながら、発達段階に応じた、教育的、心理的な支援を行い、気軽に相談できる体制づくりに努める。ユニバーサルデザインの視点に立った教育活動を学校全体で行えるよう情報交換を密に行う。	B	B	・家庭環境に課題のある生徒についてはSSWの先生とも連携することができた。今後も継続して支援する必要がある。 ・地域支援センターうじの巡回相談を行った。今後も途切れることなく線を続けていきたい。 ・昨年度に引き続き、放課後に分担して清掃に取り組んでいる。美化委員会では日常的に掃除ができていない場所の掃除を行い、校内美化に努めている。
	・環境に対する関心を高め、環境の美化、保全のために主体的に実践できる態度の育成を図る。	・美化委員会活動等を通じて、主体的に清掃活動に取り組む態度を養い、環境美化及び環境保全の啓発活動を行う。	B		
総務企画部	・中学校や地域社会に対して、学校への理解と信頼を深めるために広報活動全般の推進を図る。 ・ICT教育の推進、支援を積極的に行う。特に今年度から導入されるBYOD事業を円滑にすすむよう努める。	・学校説明会、部活動体験をはじめ、中学校訪問や塾の説明会、さらにUJI学などの運営・調整を通して、中学生や保護者、地域の人たちが本校への理解を深められる取り組みをする。	B	B	・今年度から導入されたBYODは、他分掌と連携しながら、円滑に導入することができた。ただし、導入時期については改善の余地がある。 ・学校説明会等は合計1000人を越える参加者で、満足度も高かった。特に本校生徒に本校の学校生活や部活動の様子を説明してもらった点が好評価であった。 ・PTA諸活動は、現在のコロナ禍において、活動可能な取り組みを企画、実践することができた。 ・本校の学校生活の様子を、保護者等にむけ、Classiを活用し、伝えることができた。
		・学校説明会等の年間参加者が1000人を越える広報活動を行い、説明会参加者アンケートの満足度95%以上を目指す。			
		・学校案内、ポスター、ホームページ（HP）、Classi等の広報媒体の作成、管理、更新を行い、広報活動全般の推進を図る。	B		
		・PTA諸活動を全会員に周知するとともに、積極的参加を募るよう努める。	A		
第1学年部	・基本的生活習慣を身につけさせ、集団生活による規範意識及び、自主自律の精神の育成を図る。	・自主自立的な行動にむけて、学校行事などにおける主体的な取組を充実させる。	A	B	・学校行事などに非常に主体的に取り組むことができた。 ・学習の課題などへの取り組みは概ね良好である。引き続き、学習と部活動や他の様々な活動との両立をさせるため、タブレットの活用など効果的な学習指導を検討していく。 ・進路HRや大学調べなどを通して、進路目標を実現するためにするべきことが明確になった。
		・授業を中心として、予習・復習の学習習慣を確立し、学習と部活動の両立を実現させる。	B		
		・進路希望の実現に向けて、学習習慣を確立させ基礎力の充実を図り、多様な社会における諸問題を解決する力を培う。	A		
第2学年部	・個人の尊重に基づき自主及び自律の精神を養い、その能力を伸ばすとともに、自らの進路や職業及び生活の関連を重視し、集団や社会に参画しようとする姿勢を養う。	・高校生として望ましいあり方や生活習慣を、生徒の自主性を重んじつつクラス活動や学校行事など集団生活を通じて身につけることのできる取組を実施する。	B	B	・学校行事において、自主的・自律的で協力的な活動を通して、集団や社会によりよくかかわろうとする力を涵養する取り組みを推進した。 ・毎日実施している学習時間記入と教員の協力を得た放課後補習を通じて、学習習慣の確立、学習と部活動の両立に向けた取組を実施した。長期休業中に可能な限り自習室を開設した。次年度も継続していく。 ・学年独自の進路学習で、進路目標
		・授業を中心として予習と復習の学習習慣を定着させ、学習と部活動の両立を実現させる取組を実施する。	B		

		・自ら進路計画を立てることができるよう、PDCAサイクルの確立に向け、進路学習や手帳を有効活用する取組を実施する。	B		の明確化に向けたオープンキャンパスへの参加、目標実現に向けた入試内容の把握などを通して、生徒自身が学習計画について検討できる取組を実施した。
		・学力向上と進路希望の実現に向け、組織的で計画性のある指導を継続して行うため、教科や他分掌との連携を積極的に図る。	B		・進路部と連携・協力し計画的な進路学習を実施できた。次年度に向けて、多様な進路実現に向けたサポートができるよう、連携・協力を努める。
第3学年部	・多様化・複雑化する社会に適応し、自らの将来を切り開くために判断し、行動できる力を育成する。	・スマホやSNS、服装・挨拶・時間管理（遅刻等）、また交通安全などの社会生活に関わる指導を充実させ、高校生という立場だけでなく、社会人として責任ある行動ができるよう指導する。	B	B	・概ね、規則を守り、落ち着いた学校生活を送った。規律や社会性等の面から継続的に指導が必要な生徒がいた。SNS等を利用した問題事象においては、学校では確認・判断のできないこともあり、今後、指導・対応の方向性等について検討の必要がある。 ・課題が目立つ生徒については担任、学年団だけでなく、複数の分掌、また外部の専門機関と連携し指導を行った。今後、こういった生徒への理解と対応をより丁寧に進める必要がある。 ・希望進路の実現に向け、一人一人の生徒と向き合い、進路指導を行った。 ・放課後講習、国公立対策講習、個別指導等でそれぞれの進路に応じた指導を各教科でお世話になった。本校において必要な取り組みと考えるが、勤務時間外での負担とならない形を模索する必要がある。
		・保健部、生徒指導部、家庭と連携し、課題を抱える生徒に対し指導体制を整えることで、よりよい学校生活を送り、自らの課題を克服できるようサポートする。	B		
	・希望進路の実現に向け、自らの課題に向き合い、計画的に学習し、最後まで粘り抜く個人・集団を育成する。	・面談を通じて自分自身と向き合う機会を持たせ、自らの課題を解決するための過程を模索させる。	B		
		・進路指導部と連携し、進路行事を充実させることで生徒の進路研究を深化させる。	B		
		・教科と連携し、予習・復習・課題提出など学習の核である授業に対して、積極的に参加する態度を育成し、よい学習集団の育成、学習環境の構築を目指す。	B		
		・菟活・自習室・講習などを活用させて、生徒一人ひとりの学習活動を充実させる。	B		
事務部	・予算計画に基づく効率的かつ効果的な予算執行	・本校の学校運営経営方針や経営目標を達成するために、教育内容を理解し、より効率的な予算執行を行うため各部・各教科へのヒアリングを十分行う。 ・計画的な予算執行の中にも、時機に応じた瞬時の対応が図れるよう努める。 ・本校の教育内容に沿う府の事業等を積極的に活用、推進し、特に短期経営目標であるICT教育を推進していく。	B	B	・物価の上昇や電気・ガス料金の高騰への対応を最優先にしつつも、効率的な予算執行を行うことができた。 ・生徒が各自学習用端末を持つようになり、校内のネットワーク環境を整えることが不可欠であったが、昨年度に続き、ICT環境の整備を行うことができた。各分掌・各教科と連携しつつ、今後も進めていきたい。 ・施設・設備の不良箇所について、早期発見・早期修繕に努め、学校環境を整えることができた。
	・安全な施設・設備の管理	・日常的に校内巡視を行い、不良箇所等の早期発見に努める。老朽化した箇所については計画的に修理し、学習環境の充実を進める。 ・工事や修繕の実施は、校内調整を十分に図り、生徒・教職員が安全に学校生活を送れるように計画・執行する。 ・施設・設備の不良に起因する事故を0件とする。	B		
	・効率的な文書事務の徹底	・文書の起案・審査・決裁・施行・廃棄等の取扱いを、文書取扱主任を中心に、事務部および各分掌等へも指導し徹底する。 ・個人情報の管理を適切に行う。	B		

	・学校経営に参画する事務職員の育成	・本校の魅力や特色について情報発信の方法や内容を工夫し、地域や中学生の理解と信頼を得るため、学校説明会等において、教職員と連携し積極的に参画し、生徒募集につなげる。 ・学校行事等へ積極的に参画し、学校全体の業務や事業について俯瞰し、教育的視点も持ちあわせて業務に活かせる事務職員を目指す。	B		
--	-------------------	---	---	--	--

評価領域 (教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		進捗状況（成果と課題）
			項目	総合	
国語科	新学習指導要領並びに大学入試改革に対応可能な、主体的・協働的で深い学びを意識した授業を行い、社会生活に必要な技能を育む。	・複数の資料を読み比べ、課題解決のために必要な情報を取捨選択できる技能を身につけさせるような授業、課題を設定する。 ・ICT機器を積極的に活用することで、異なる複数の考えに触れさせ、自身の考えをより深化できるような授業を行う。 ・教授型の授業だけでなく、課題に対して主体的・協働的に解決する教育活動を行う。 ・図書館、情報処理室を活用しながら、グローバルネットワーク事業との関連の中で、小論文・ポスターセッションを通し、課題解決型の学習活動を充実させる。	B	B	・定期考査を工夫し、複数資料を読み比べる問題への抵抗を減らすことができた。また、考査内容等を教員間で共有できた。 ・ICT機器を有効に活用し、従来よりも多くの文章に触れることができた。各单元ごとに扱う内容を精選し、より多くの文章に触れる機会を捻出していきたい。 ・授業内で力をつけさせる指導をより意識していきたい。模擬試験の結果を教員間で共有し、3年間体系立てた指導を、教科として取り組んでいく必要がある。
	語の意味や文章の構造、言葉の働きや役割を理解し、言語感覚を磨き語彙を豊かにさせる。	・小テストや課題を継続的に課すことで、学習習慣の確立と語彙力の養成を図る。 ・ICT機器を適宜使用し、従来よりも多くの文章に触れさせることで、論理的に文章を読解する手法を身につけさせる。 ・自身の考えや読み取った内容を適当な言葉を用いて相手に伝える力を養成する取り組みを行う。	B		
地歴公民科	・生徒の希望進路の実現に向けて、大学入学共通テストをはじめとする多様化した入試に対応できるよう、組織的に取り組む。	・小教科の担当者同士の打ち合わせや意見交換を密にし、計画的な指導を行う。また、教員間での専門分野や経験値の違いをうまく活用し、情報・ノウハウ・教材を共有していき、教科全体の財産を蓄積する。 ・落ちつきある学習環境の確保・維持に努めるとともに、学年部をはじめとする他の分掌との連携を密にし、課題を抱える生徒の把握、組織的な対応などに努め、粘り強い指導を行う。 ・大学入学共通テストをはじめとする多様化した入試に対応し、希望進路の実現に向けて生徒を支えていくために、模擬試験なども活用した粘り強い指導を行う。校内外での研修や研究授業や授業公開を積極的に参加・活用する。	B	B	・多様化する入試に対して、授業だけでなく、講習や個別指導を通じて、生徒の希望進路の達成に向けて、粘り強い指導ができた。 ・単元テスト・定期的な小テスト・レポート課題を実施し、生徒の学習習慣の確立につなげることができた。 ・新科目について、担当者間でよく検討し、取り組むことができた。今後も指導の進め方を模索していく必要がある。来年度以降も、新科目が始まるので、教科全体で取り組んでいきたい。 ・観点別評価については、担当者を中心にシミュレーションを繰り返しながら、丁寧な評価ができた。今後
	・より質の高い授業を展開する中で、生徒の持つ次の能力を高めるために、組織的に取り組む。 ①基礎・基本的な学習内容の定着 ②学習意欲を向上、自ら積極的に学ぶ姿勢 ③地理・歴史・公民それぞれへの興味・関心 ④現代社会の諸問題についての関心を高め、その解決に向けて取り組む能力	・定期考査以外にも、計画的な単元テストや小テストの実施や、適切な課題やレポートなどを課すことを通じて、基礎・基本的な学習内容の定着と自ら積極的に学ぶ姿勢の向上を図る。 ・生徒の取り組み姿勢や成果に対して、適切なフィードバックを行うことで、生徒の学習意欲を向上させる。 ・本校に整備されているICTを活用した実践を一層充実させ、生徒の地理・歴史・公民それぞれへの興味・関心・理解度を高めていくとともに、よりよい活用法を研究する。	B		

		・本校特色化事業や伝統文化事業にも積極的に関わっていく中で、現代社会の諸問題についての生徒の関心を高め、その解決に向けて取り組む能力を高める。			・も試行錯誤していく必要がある。 ・BYODについては、少しずつであるが、授業に生かすことができた。
	・新科目、観点別評価、BYODなど新たな動きに円滑に対応できるように教科全体で取り組む。	・新科目、観点別評価、BYODなど新たな動きについては、校外での研修にも意欲的に参加し、ノウハウの習得に励むとともに、校内での実践に還元、情報共有を図る。			
数学科	3年間を見通した学習指導を行い、希望進路の実現につながる学力を一人一人につける。	・より質の高い授業を行うよう努めるとともに、実力を育成するための十分な演習時間と質を確保する。	A	B	授業の中で、問題演習の時間と内容の質の確保に努めた。 共通課題だけでなく、各担当講座に対応した課題を提示し学力を伸ばす工夫をした。 ICTを活用した授業を数多く試行錯誤し、指導法を研究した。 共通テストに向けて一定の研究ができた。今年度の結果を基に、次年度以降、さらなる研究が必要である。
		・家庭学習の意識を高めるため、各時の課題を明らかにし、明確な目標を持って学習に取り組む自ら学力を伸ばす生徒を育てる。	B		
		・ICTを有効に活用する授業について研究する。	A		
		・大学入学共通テストに対応した問題の研究を進める。	B		
理 科	自然科学に対する生徒の興味・関心・意欲を高め、知識を身につけさせ、科学的なものの見方・考え方を働かせる。	授業にプロジェクター、電子黒板などのICT教材や演示実験等を効果的に活用する。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を促進する。	B	B	・電子黒板などICTを活用した授業を実施できた。 ・1年タブレットについて、授業で活用することはできているが、より効果的な活用については検討が必要であった。 ・感染拡大防止に十分配慮し、工夫しながら実験・実習を実施することができた。 ・小テストや課題提出などは、授業の進度に合わせて実施できた。課題の量や頻度については検討が必要な部分もあった。
		実験・実習は新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら実施し、レポートの作成方法を指導して全員に提出させる。また高大連携事業などにおける実験・実習やプレゼンテーションを通して、探究的に学ぶ姿勢を養う。	B		
	進路選択に対応できる学力を育成する。	授業の順序や内容を適切に組み立て、効果的な指導を行う。学習内容の定着のため可能な限り問題演習や小テストを実施し、演習ノートの提出等を通して学習状況を確認する。	B		
		小テストや課題テスト等を適宜実施し、基本事項の定着を図る。授業と家庭学習の関連付けを明確にし、学力補充や進学補習にも積極的に取り組ませ、進路実現のために必要な学力を身につけさせる。	B		
保健体育科	・自己の心身を客観的に分析し、自ら調整する力や他者に伝える力を養わせ、健康・安全に個人・社会生活を営むことができるようにさせる。	・運動実践や体育理論、保健学習を通じて、スポーツの歴史や文化、身体の構造、運動の効果を理解させることによって、運動することの意義や楽しさを学ばせる。 ・健康を管理し、改善していくための、情報を提供する「発表」とその情報をまとめる「収録作り」を実践させる。	A	A	・発表学習を通じて、健康につながる知識の習得だけでなく、論理的に表現できる力を養うことができた。 ・可能な限り種目を選択させるものの、担当教員数等に限界があり、十分な選択幅とは言えないが、生徒は意欲的に取り組んだ。
	・自己に応じた体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する能力を付けさせる。	・可能な限り生徒の興味関心のある運動スポーツや題材を選択させ、意欲的に取り組むようにさせる。 ・選択制授業を通じて、自ら計画を立案し、集団で運動やスポーツに取り組むことができる基盤を作り上げる。	B		

	・感染症対策等に留意させ、自他の健康・安全について理解を深めさせる。	・事故や怪我がないように、用具の使用法に留意させることに加え、感染症対策にも留意させ、自他の健康・安全を守らせる。 ・AED使用等、心肺蘇生法を学習させ、万が一の対応に備える。	A		・用具の使用法を入念に説明したことで大きな事故なく授業を展開することができた。
芸術科	・基礎的・基本的な技術の定着を図り、意欲的に活動する姿勢を育成する。更に、定着した技術を基に独自に応用する能力を身に付けさせる。	・意欲や創造性を引き出せる指導法の研究と教材の精選をすすめ、生徒の主体的に取り組む姿勢と創造力を向上させる授業を行う。	B	B	・それぞれの選択した科目の中で設定された単元・課題に熱心に取り組んだ。作品制作や練習の成果を発表する芸術祭では、それぞれの成果を展示・発表することができ、生徒は達成感を得ることができた。 ・授業においては、生徒の人格形成に資するような授業の展開を心がけた。また、ICTを活用した授業を試行錯誤し、指導法を研究した。
	・それらの活動を通じて、自国・他国の文化芸術を尊重する人材を育てる。 ・豊かな創造力を基に、主体的に考え自ら問題提起し解決に向けて行動できる能力を育てる。	・日常の様々な場面で作品を発表させることにより、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。 ・授業で学んだ事が社会とつながるものにする。	B		
英語科	組織的で計画的な指導を通して、適切な学習習慣と基礎学力の定着を図り、希望進路に対応できる実践力を養う。	・学習のねらいを理解させた上で、授業の内容を工夫し、適切に小テストや課題を課す。また、菟活や模擬試験等も有効活用する。 ・ICTを効果的に用いた授業や適正な評価について研究し、教科内で共有する。	B	B	・小テストや課題、菟活に積極的に取り組みせ、学習習慣を育成し、実践力を養うことができた。 ・ICT教材を教科内で共有し、授業に生かすことができた。1年は、観点別評価を適切に実施できたが、次年度に向けてさらに考えていく必要がある。 ・1年は、定期的にAETとの授業を入れ、4技能を踏まえた授業やパフォーマンステストを実施できた。2、3年につなげていきたい。 ・英検の面接対策を個別で行った。探究的な活動については、さらに議論を進めたい。
	知識・技能の習得にとどまらず、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、思考力・判断力・表現力を養う。	・4技能を総合的に育成する言語活動を授業に取り入れ、コミュニケーションを意識させる。 ・AETを積極的に活用し、特にスピーキングやライティング活動を活性化させる。	B		
	英語学習への意欲・関心を高め、自主的・主体的に取り組む姿勢を育む。	・GTECや英検の受験で英語運用能力を測ることにより、自己の課題を認識させる。 ・生徒の興味・関心・能力に応じた教材を選択し、探求的な活動を取り入れる。	B		
情報科	・課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を養う ・情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解をさせる。 ・基本的なアルゴリズムを理解させ、初歩的なプログラミングの知識と技術を身につける。	・主体的な態度で授業にのぞませ、他者との対話を重ねながら実習課題等に取り組ませる。 ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成を図るために、効果的なプレゼンテーションの手法を理解させる。 ・基本的なコンピュータリテラシー（タッチメソッド・表計算・プレゼンテーションソフト等）を講義、実技を通して身につけさせる。 ・VBA及びPythonをもとに、プログラミングの基礎を身につけさせる。	B	B	・実習課題やプログラム問題に、他者との対話を重ねながら、積極的に取り組ませることができた。 ・プログラムはVBAだけにしぼり、基本的なアルゴリズムの習得させ、共通テストのサンプル問題等も解答できる基準まで理解を深めさせた。 ・プログラムの学習にかかる時間が想定以上に長かった。課題の精選、教材の改善を今後図っていきたい。

学校運営協議会による	・落ち着いた学習環境を維持し、あらゆる教育活動において粘り強い指導を行い、学校評価アンケートや学校経営計画の最終評価においても教育活動について一定の評価が得られている。今後も「菟道高校に入学してよかった」「菟道高校生であることに誇りを感じる」思いを持たせられるような学校としての在り方を意識してほしい。
------------	---

評価	・質の高い授業を実践し、部活動をはじめ特別活動の充実を図りながら、校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」をすべての教育活動で具現化できるよう努めてほしい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが、第2学年研修旅行、菟道祭、体育祭など大きな行事が実施できて良かった。 ・グローバルネットワーク京都の取組を活用し、生徒がプレゼンテーションをする機会を継続して設けてほしい。また、プレゼンテーションする機会を増やし、グローバル化で生き抜く生徒を育ててほしい。 ・宇治田楽は宇治の伝統文化であり、今後も継続して取り組んでもらいたい。 ・ICT活用などデジタルの有効なところとアナログの良いところとの併用を図ってほしい。
次年度に向けた改善の方向性	・次年度以降も質の高い授業を実践し、部活動をはじめ特別活動の充実を図りながら、本校の校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」をすべての教育活動で具現化できるよう努める。 ・新学習指導要領に基づきながら、タブレット端末の有効活用を円滑に進めていく。 ・自転車の交通安全指導やスマートフォンやタブレット端末の利活用に伴う情報モラル教育を推進する。 ・新学習指導要領での「総合的な探究の時間」をより体系的、協働的に取り組める体制を築く。 ・学校説明会で在校生が中学生や保護書に語る機会を設け、菟道高校生の良さをアピールし生徒募集につなげる。 ・校内の施設設備について、可能な範囲で更新をして学習環境を整える。